



火災は複雑・多様化

地下街や高層ビル増加で

自治省 消防庁次長
大嶋 孝氏に聞く

80年代の防災を考える

九月一日は「防災の日」。最近、都市構造の変化と危険物の増加で、災害が多様化し、複雑化している。その原因は、都市の集積とともに危険な集積、日常生活の中で危険が増しているから。政府は、消防力強化に努力しているが、きびしい財政事情のため、消防力の少数量産化をはかる以外に、消防力の科学化、機械化が要請される。消防職員の

訓練が欠けてきた問題になっている。一方、自治体でも都市型防災を中心とした対策を強化している。その中で、八〇年代の防災を考える「シミュレーション」は、消防力がいかに近代化されるかが鍵になる。自治省消防庁次長、大嶋孝氏に聞いた。(聞き手は、奥村 高久、論議委員)

大嶋 消防庁自身も消防力の近代化に力を入れている。消防力の近代化は、消防力の科学化、近代化を進め、大災害にも対応できる消防職員の科学的、専門的な訓練も必要です。また、企業も自分の責任で消防用設備を整備、防災訓練をすることで、防火管理体制を整えることが、人命を守る見地から大事だと考えます。

大嶋 消防法では、ビル防災について火災予防の観点から、さまざまな消防用設備の設置を義務付けているが、現在のビル防災対策は消防法による規制と建築基準法による規制との重複によるものが多い。重複する規制は、事業者にとって負担が大きくなる。また、ビル防災の対策は、ビル自体の耐火性能、防火区画の確保、避難経路の確保、消火設備の設置など、多岐にわたる。ビル防災の対策は、ビル自体の耐火性能、防火区画の確保、避難経路の確保、消火設備の設置など、多岐にわたる。

大嶋 これからは、ビル防災の対策は、ビル自体の耐火性能、防火区画の確保、避難経路の確保、消火設備の設置など、多岐にわたる。ビル防災の対策は、ビル自体の耐火性能、防火区画の確保、避難経路の確保、消火設備の設置など、多岐にわたる。

最近の大きな災害では、昨年の静岡駅前ビル火災、大阪の毒物貯蔵庫火災、川崎の火災、札幌の火災、仙台の火災など、人的にも物的にも大被害を受け、大規模化する危険性があります。

大嶋 都市構造、あるいは建築構造が変化し、また、高層ビル、地下街などが増加し、規模も巨大化し、濃煙時、複合的な災害を誘発する可能性が高め、都市構造が災害に対して脆弱になると考えられます。

大嶋 消防法の近代化、近代化は、消防力の科学化、近代化を進め、大災害にも対応できる消防職員の科学的、専門的な訓練も必要です。また、企業も自分の責任で消防用設備を整備、防災訓練をすることで、防火管理体制を整えることが、人命を守る見地から大事だと考えます。

大嶋 消防法では、ビル防災について火災予防の観点から、さまざまな消防用設備の設置を義務付けているが、現在のビル防災対策は消防法による規制と建築基準法による規制との重複によるものが多い。重複する規制は、事業者にとって負担が大きくなる。また、ビル防災の対策は、ビル自体の耐火性能、防火区画の確保、避難経路の確保、消火設備の設置など、多岐にわたる。ビル防災の対策は、ビル自体の耐火性能、防火区画の確保、避難経路の確保、消火設備の設置など、多岐にわたる。

大嶋 これからは、ビル防災の対策は、ビル自体の耐火性能、防火区画の確保、避難経路の確保、消火設備の設置など、多岐にわたる。ビル防災の対策は、ビル自体の耐火性能、防火区画の確保、避難経路の確保、消火設備の設置など、多岐にわたる。

大嶋 都市構造、あるいは建築構造が変化し、また、高層ビル、地下街などが増加し、規模も巨大化し、濃煙時、複合的な災害を誘発する可能性が高め、都市構造が災害に対して脆弱になると考えられます。

大嶋 消防法の近代化、近代化は、消防力の科学化、近代化を進め、大災害にも対応できる消防職員の科学的、専門的な訓練も必要です。また、企業も自分の責任で消防用設備を整備、防災訓練をすることで、防火管理体制を整えることが、人命を守る見地から大事だと考えます。

大嶋 消防法では、ビル防災について火災予防の観点から、さまざまな消防用設備の設置を義務付けているが、現在のビル防災対策は消防法による規制と建築基準法による規制との重複によるものが多い。重複する規制は、事業者にとって負担が大きくなる。また、ビル防災の対策は、ビル自体の耐火性能、防火区画の確保、避難経路の確保、消火設備の設置など、多岐にわたる。ビル防災の対策は、ビル自体の耐火性能、防火区画の確保、避難経路の確保、消火設備の設置など、多岐にわたる。

大嶋 これからは、ビル防災の対策は、ビル自体の耐火性能、防火区画の確保、避難経路の確保、消火設備の設置など、多岐にわたる。ビル防災の対策は、ビル自体の耐火性能、防火区画の確保、避難経路の確保、消火設備の設置など、多岐にわたる。

大嶋 これからは、ビル防災の対策は、ビル自体の耐火性能、防火区画の確保、避難経路の確保、消火設備の設置など、多岐にわたる。ビル防災の対策は、ビル自体の耐火性能、防火区画の確保、避難経路の確保、消火設備の設置など、多岐にわたる。

ハンゴ車など充実 消防力近代化目指す



「建築物危険度評価システムの作成に着手しています」と語る大嶋次長

大嶋 建築物危険度評価システムの作成に着手しています。建築物危険度評価システムとは、建築物の耐火性能、防火区画の確保、避難経路の確保、消火設備の設置などを評価するシステムです。建築物危険度評価システムは、建築物の耐火性能、防火区画の確保、避難経路の確保、消火設備の設置などを評価するシステムです。

大嶋 これからは、建築物危険度評価システムの作成に着手しています。建築物危険度評価システムとは、建築物の耐火性能、防火区画の確保、避難経路の確保、消火設備の設置などを評価するシステムです。建築物危険度評価システムは、建築物の耐火性能、防火区画の確保、避難経路の確保、消火設備の設置などを評価するシステムです。

SLEシリーズは、自然排煙装置で初めての防災認定品として、「財団法人・日本建築センター」からBCJマーク(BCJ-防災-110号)の表示が認められ、優れた性能が証明されました。

●建築基準法・消防法に適合します

キャブックス
ウィンドウオペレーター
SLEシリーズ

国内で地震
海外で奥
携帯

パナソニック消火器・消火装置

ビルの高層化で

「表示・公表制」を実施 危険な建築物の一掃図る

この火災の後、消防庁では、ホテル・旅館火災を中心とした防火対策の検討を行ったのであるが、細かい点で述べたような問題点はあるものの、直ちに法令の改正が必要であるような事項はなかつた。上記の問題点を多岐にわたるが、その中でも、建築物を消防法令及び建築基準法の規定に適合させることが、防火対策の第一である。この点について、消防庁では、昭和五十五年十一月に発生した川崎アパルトメントの火災における検討の結果、同様の火災を繰り返さないよう、昭和五十六年五月に告示した「表示・公表制度」や、法律・通令・措置命令を有効に活用するとして、防火対策を進め、危険な建築物を一掃してゆくこととしたのである。

当面は旅館やホテルを対象

この「表示・公表制度」は「表示制度」と「公表制度」とから成っている。表示制度とは、特定の防火対象物が二十四箇目から成る一定の防火上の基準のすべてに適合している場合は、消防機関がこれをマークを發行し、建築物の所有者が、利用者に消防機関の保有する防火関係の情報を公開する一種の情報公開の制度である。同様に、これにより建築物の所有者が自ら防火対策を促すことをめざしている。

当面はシステム設備で 将来はロボットビルも

この制度は、二階以上、収容人員が三十人以上の建築物に特定多数の者が避難者が利用するものを対象としているが、当面、全国では旅館・ホテルから実施しているものである。

また、公表制度は、消防法令違反の建築物が、消防機関の所管にわたる場合は、防火対策の促進を図る目的で、その名称等を

（システム化の推進）
最近、たいてい建築物は全般的にシステム化して、大規模化し、複雑化している。このため、従来の防火対策が、大規模化し、複雑化している建築物に適用できなくなっている。このため、防火対策の促進を図る目的で、その名称等を公表する。また、防火対策の促進を図る目的で、その名称等を公表する。

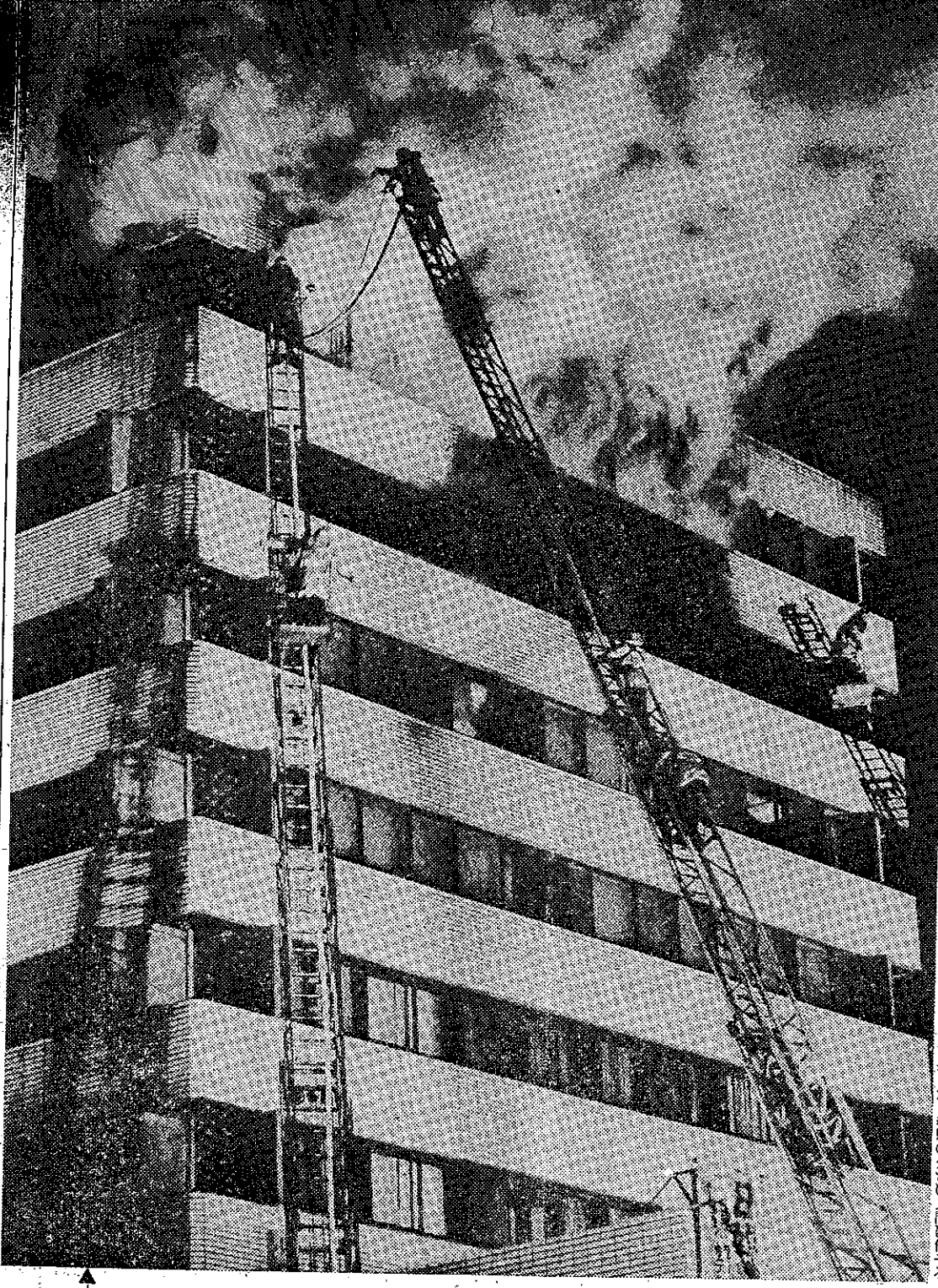
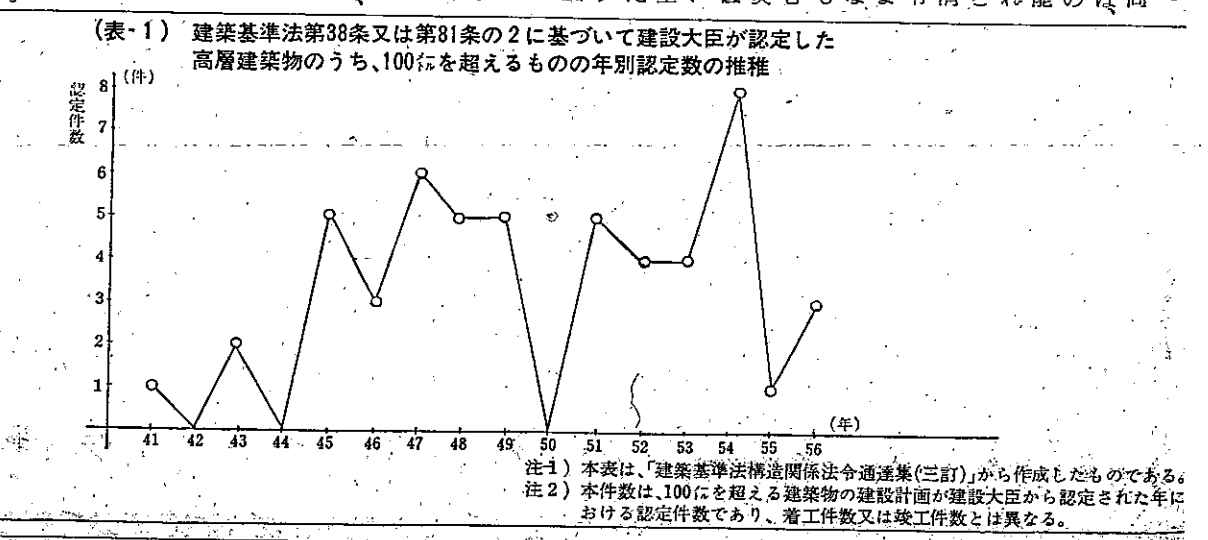
（ロボットビル）
このため、消防庁では、非火災火災の発生を防止し、火災の被害を軽減する目的で、ロボットビルを推進している。ロボットビルとは、非火災火災の発生を防止し、火災の被害を軽減する目的で、ロボットビルを推進している。

煙感知器の設置

高性能な機器を 歩月日進 技術の進歩

煙感知器は、初期火災の発見に有効に活用し、火災の被害を軽減する目的で、広く設置されている。高性能な機器の開発が進み、歩月日進の技術の進歩が著しい。

このため、消防庁では、初期火災の発見に有効に活用し、火災の被害を軽減する目的で、広く設置されている。高性能な機器の開発が進み、歩月日進の技術の進歩が著しい。



（ロボットビル）
このため、消防庁では、初期火災の発見に有効に活用し、火災の被害を軽減する目的で、広く設置されている。高性能な機器の開発が進み、歩月日進の技術の進歩が著しい。

（ロボットビル）
このため、消防庁では、初期火災の発見に有効に活用し、火災の被害を軽減する目的で、広く設置されている。高性能な機器の開発が進み、歩月日進の技術の進歩が著しい。

（ロボットビル）
このため、消防庁では、初期火災の発見に有効に活用し、火災の被害を軽減する目的で、広く設置されている。高性能な機器の開発が進み、歩月日進の技術の進歩が著しい。

オペレーター の技能保証

消防庁では、現在、このような状況を踏まえて、何をどの程度までシステム化するかの検討が、また、ディスプレイや操作盤の統一化の方向は如何であるか、などの点を検討している。

多数の死者を出した ホテル・ニュージャパンの火災

この火災の後、消防庁では、ホテル・旅館火災を中心とした防火対策の検討を行ったのであるが、細かい点で述べたような問題点はあるものの、直ちに法令の改正が必要であるような事項はなかつた。